

防除情報

長崎県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察防除情報第15号

ばれいしょ・ブロッコリー ヨトウムシ類 (ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ) の防除対策について

圃場でのヨトウムシ類の発生が多い状況です。今後、被害の増加が予想されますので下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況等

- (1) 10月前期のばれいしょにおける巡回調査(20筆)の結果、ヨトウムシ類の被害株率は17.1%(平年 1.1%)、発生圃場率は95.0%(平年 19.4%)であった。
- (2) 10月前期のブロッコリーにおける巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は18.0%(平年 1.9%)、発生圃場率は50.0%(平年 26.0%)であり、若・中齢主体であった。シロイチモジヨトウの寄生株率は3.3%(平年 1.9%)、発生圃場率は33.0%(平年 19.4%)であった。
- (3) ハスモンヨトウおよびシロイチモジヨトウのフェロモントラップ(諫早市)の誘殺数は、平年より少なく推移している(図1、2)。
- (4) 病害虫防除員の報告によると、ハスモンヨトウのフェロモントラップの誘殺数は雲仙市で10月1半旬～2半旬にかけて急増している(図3)。

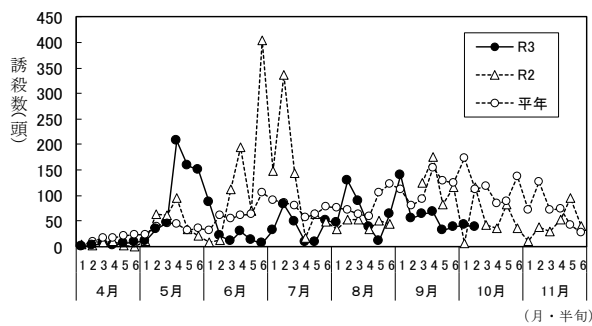


図1 ハスモンヨトウの誘殺数(諫早市小船越町)

※R2 9月1、2半旬台風のため欠測

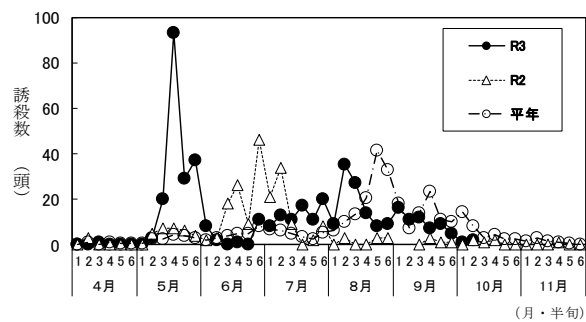


図2 シロイチモジヨトウの誘殺数(諫早市小船越)

※R2 9月1、2半旬台風のため欠測

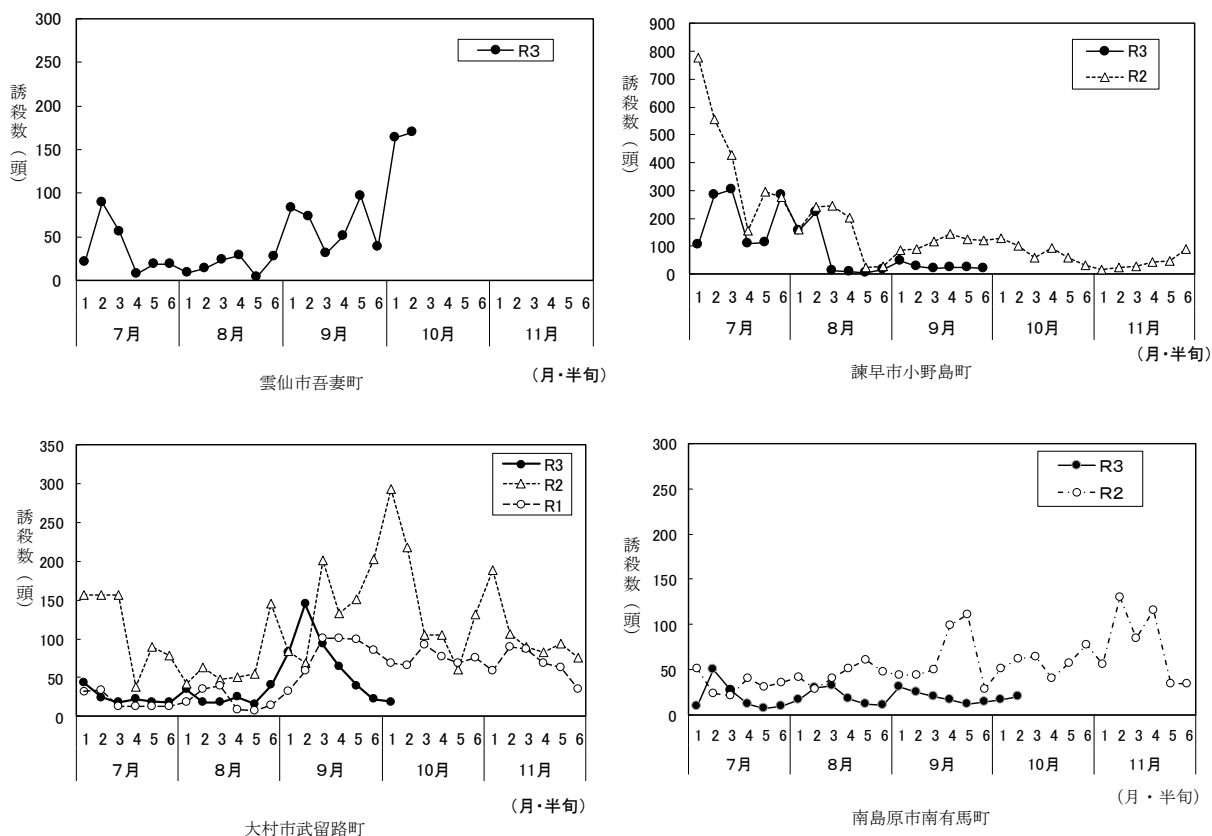


図3 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数

2. 防除対策

- (1) 圃場の見回りを徹底し早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- (2) 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若、中齢幼虫期に防除を行う。なお、薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 今後定植するブロッコリーでは、育苗トレイへの灌注や粒剤の株元処理等を徹底し、初期生育期に食害が発生しないよう努める。
- (4) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和3年長崎県病害虫防除基準ばれいしょP76～77、ブロッコリーP240～243の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、ローテーション散布する。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所）ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所） TEL：0957-26-0027

